# まちに関わりしろを。

## ~学生サポーターの継続的参加を実現するデザイン~

6班　龍谷大学 阿部ゼミ

# 目次


## 1. はじめに
1-1 チーム紹介
1-2 テーマ選択

## 2. おおいサポーターの現状と課題
2-1 おおいサポーター制度の概要
2-2 現状と制度運営上の課題
2-3 関係人口の再解釈
2-4 おおい町における「学生」のちから

## 3. 提案について
3-1 提案の概要
3-2 参考事例
3-3 本制度導入の流れ
3-4 導入後の展望

# 1-1 チーム紹介

【メンバー】

龍谷大学　政策学部政策学科　阿部研究室

笠松綾乃・田中咲・農業美弥子・原田倖・山田陽香



【研究内容】

阿部ゼミは、都市空間デザイン・都市計画を専門に研究しています。まちの課題や資源をリサーチし、データを可視化したうえで、そのまちに適した都市デザインやまちづくりを提案してきました。
「都市のおもしろさは空間に宿る」をモットーに、地域らしさ・魅力を引き出す視点と提案を磨く力を活かし、おおい町の魅力と課題を見出す提案でおもしろいまちづくりに貢献します。

# 1-2 テーマ選択

【大テーマ】**SEESEAPARK　オールシーズン賑わい創出**

【小テーマ】

**①「町の内と外に住む人たちの、つながりつづくまちづくり」**
②「自然や文化、テクノロジーを活かし、子どもの未来ひろがる体験を」
③「持続的な地域社会をつくるための DX 推進ラボ」

**①「町の内と外に住む人たちの、つながりつづくまちづくり」**

現在、進学を機に町を離れた地元の若い人やアイデアコンテストに参加してくれた学生、移住に関心がある人など、多くの人たちが**関係人口**として「おおいサポーター」に登録してくれていますが、登録後一定期間経過後に関係が途絶えてしまうことが多く、本サブテーマでは「**おおいサポーター」登録者に継続しておおい町に関わってもらうためのアイデア**を募集します。

# 2-1 おおいサポーター制度の概要

［**おおいサポーター制度とは？**］

▷**対象**：おおい**町外**に在住する人

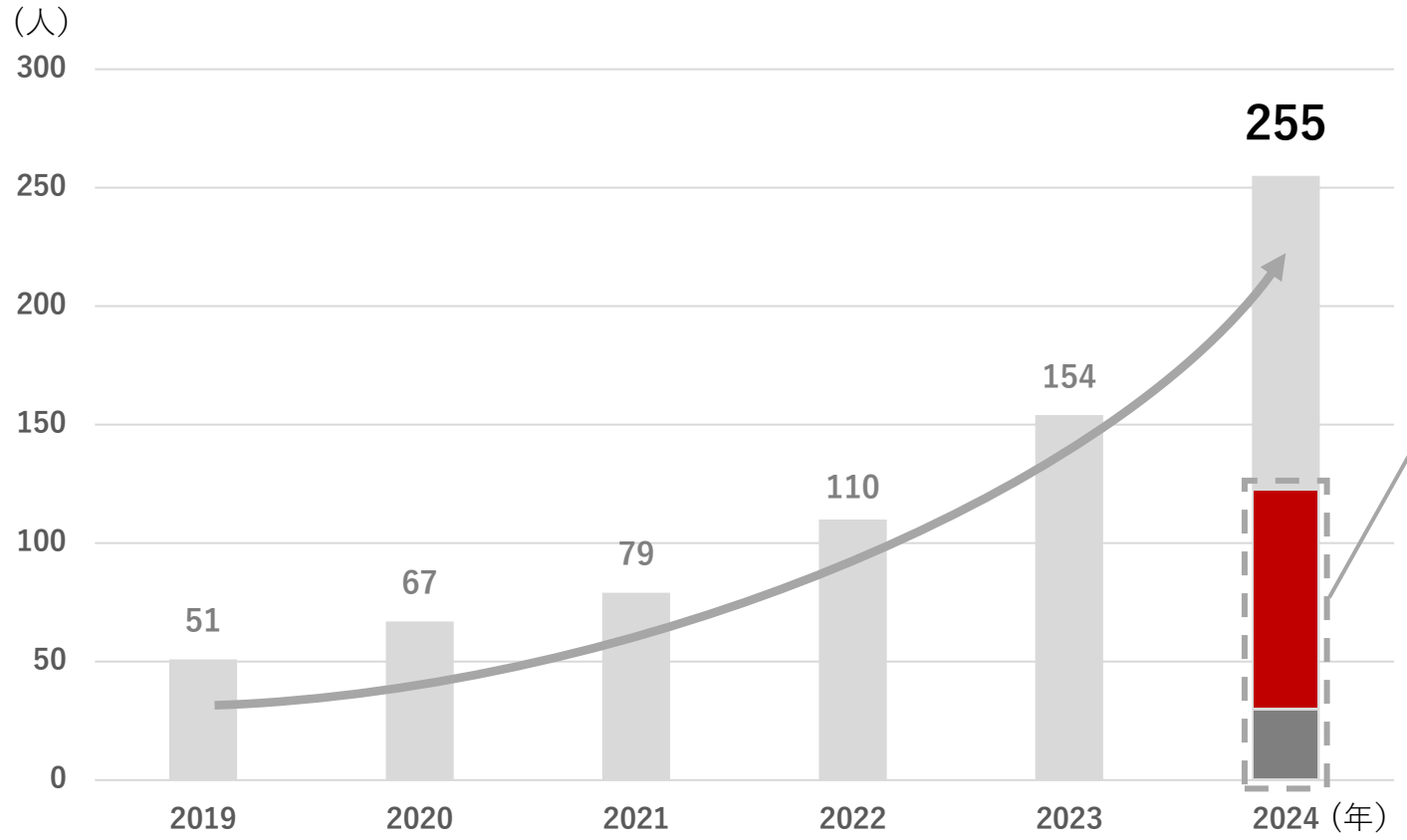
▷**活動**：**PR活動**

- 自主的な町の魅力・地域資源等に関する情報発信・PR活動
- 町の特産品のPR
- 移住希望者への町のPR
- その他町の発展、イメージアップにつながる活動

▷**行政からの支援**：町の各種情報の提供、その他町長が適当と認める支援

# 2-2 現状と制度運営上の課題

**現状：** サポーター登録数は年々**上昇**傾向。
令和６年 登録者の半数以上がアイディアコンテストなどに参加した**大学生**。




**令和６年　登録者内訳**

- **まちづくりアイデアコンテストに参加した大学生(95名)**
- **町での調査研究活動を行った大学生（28名）**

- 一次産業体験者(38名)
- 同窓会の参加者(30名)
- ホームページを見て登録した方(16名)

など（令和6年10月末時点）

△図-1　おおいサポーターの新規登録数（参考：第2次おおい町未来創生戦略 より作成）

# 2-2 現状と制度運営上の課題

## ［インタビューから見えたサポーターの課題］

登録者数と実働（アクティブ層）の大きな乖離

### 参加率の低さ

登録約350人に対し、年1回のアンケート回収は約30人。**登録が活動や関与に結びついていない。**

行政側の働きかけ・接点づくりの不足

### 継続的なコミュニケーションの欠如

登録後、具体的な働きかけや定期的な情報発信・**交流の場を継続して提供できていなかった。**

サポーター側のメリット・関わりしろの不足

### インセンティブの乏しさ

メリットは情報提供が中心（アンケート回答で特産品程度）。参加したくなる**「関わりしろ」が不足。**

ターゲット層（学生）の定着と関係継続の難しさ

### 継続性の課題

登録者の**8〜9割**が学生。コンペや研究をきっかけに関わるが、終了すると関係が途切れやすい。

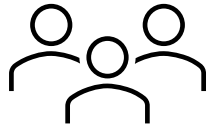
**課題：** 登録数に対する**「実際の稼働数」の伸び悩み**が顕著。
**対策：** 単なる人数の確保にとどまらず、**意欲と熱量を持ったサポーターの育成・定着が必要。**

# 2-3 関係人口の再解釈

**地域に居場所がある人、住んでいなくても**
**地域を「自分ごと」にできる人**



**関係　人口**



質の高い関係性　人数の多さ

主体性や専門性を持ち、
地域を気にかけ続けてくれる

**「数」としての関係人口を増やすのではなく、**
**関係人口の「質」を上げる**

# 2-4 おおい町における「学生」のちから

## 現状



**登録者数の半数は「学生」が占めている。**

しかし…
まちづくりコンテストや研究をきっかけに関わる多くの学生は、**終了すると関係が途切れやすい。**

## 学生の可能性



コンペで参加した大学生は全員、一度おおい町に来ている！
だから、**まったく知らないまちよりも「自分ごと」として考えやすい。**

**➡質の高い関係人口になりうる！！**

**コンテストに参加したOB/OGや**
**受賞したチーム以外の大学生にも継続して参加しやすくなる「関わりしろ」**
**を増やす政策を提案する**

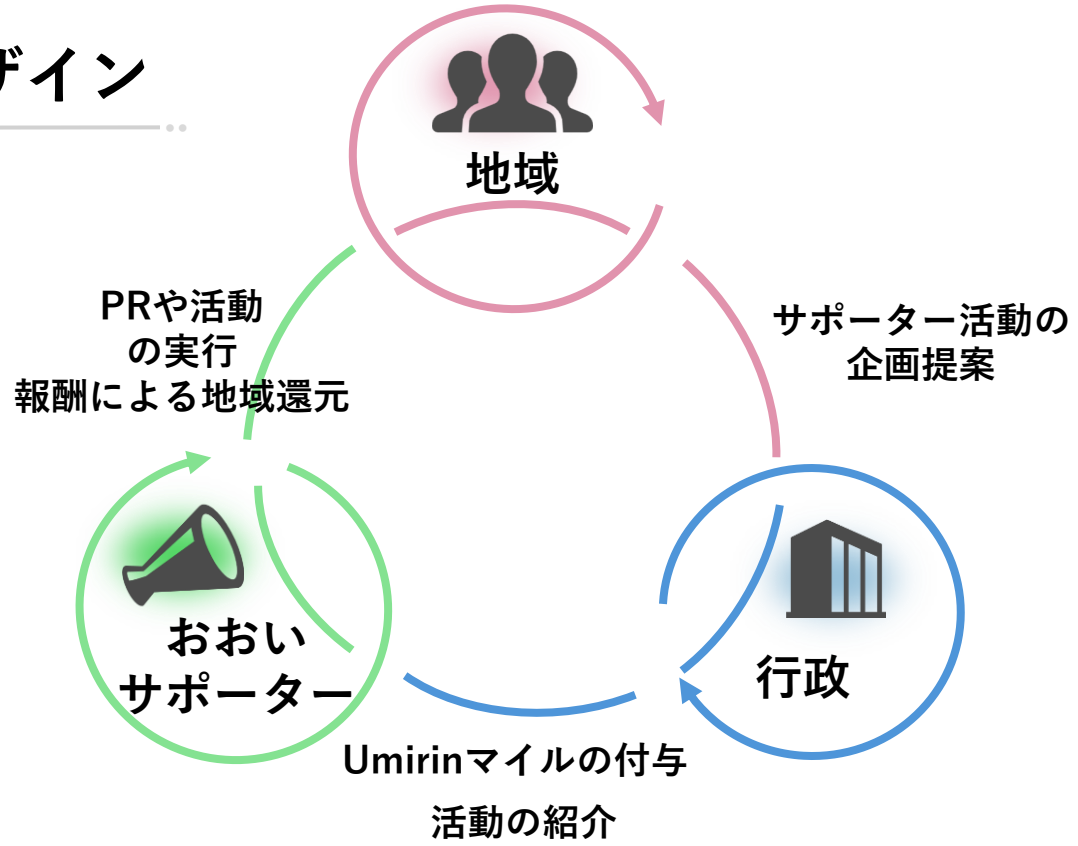
# 3-1 提案の概要

## 学生サポーターの継続的参加を実現するデザイン

目的：おおい町に関わり続けるための「関わりしろ」を増やす。

対象： 過去のアイデアコンテスト参加者も含めた、
おおいサポーターとなった本コンテストの参加学生たち

方法：❶参加したくなる企画づくりの仕組み
❷参加を後押しするポイント制度の導入




**それぞれ自分に合った関わり方を増やし、継続的に関われる人を少しずつ増やす**

# 3-2 参考事例

## Case1：コペンハーゲン

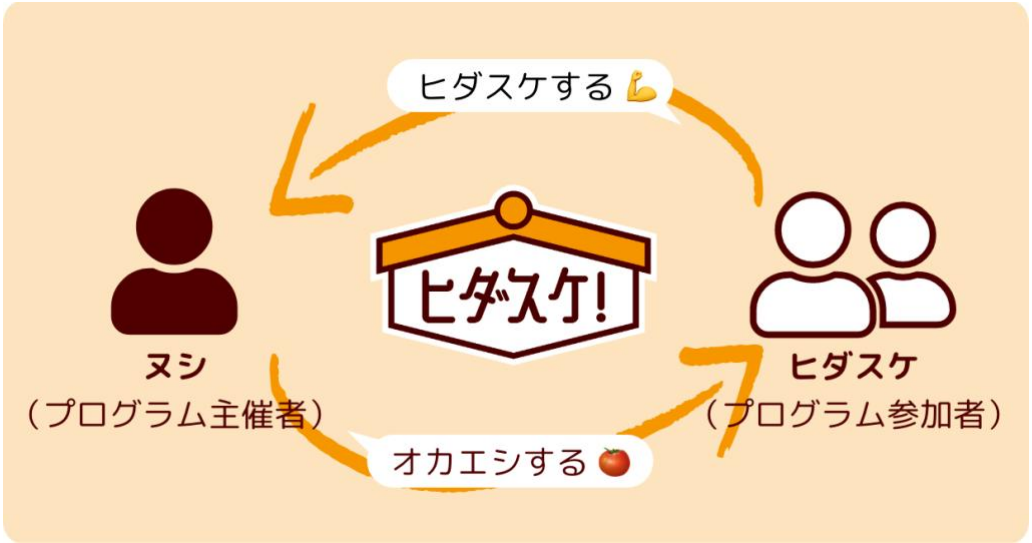
種まき、植え付け、水やり、除草、収穫、堆肥作りのような都会の庭仕事を手伝うことによって、対象のホテルやラウンジでのランチを**50%割引**で楽しめる。



参考：Frederiksbergfondenホームページ
<https://frederiksbergfonden.dk/2024/10/15/hospitalsgrunden-bliver-groennere-mellem-de-gule-mursten/>

## Case2：岐阜県飛騨市

飛騨市の人がちょっとやってみたいことや地域の困りごとをきっかけに地域と関われる仕組み。




「**ヒダスケ**」することで市から「**オカエシ**」として「**さるぼぼコイン**」（電子地域通貨）がもらえる
**→飛騨のお店で飲食やお土産に利用できる**

参考：ヒダスケ！-飛騨市の観光案内所＜https://hidasuke.com/＞

# 3-3 本制度導入の流れ

## 方法❶：参加したくなる企画づくりの仕組み

人手不足などの**地域の需要**をくみ取り、
**学生などの意見**を取り入れ、行政やSEE SEA PARKがイベント化

学生サポーター
がしてみたいこと

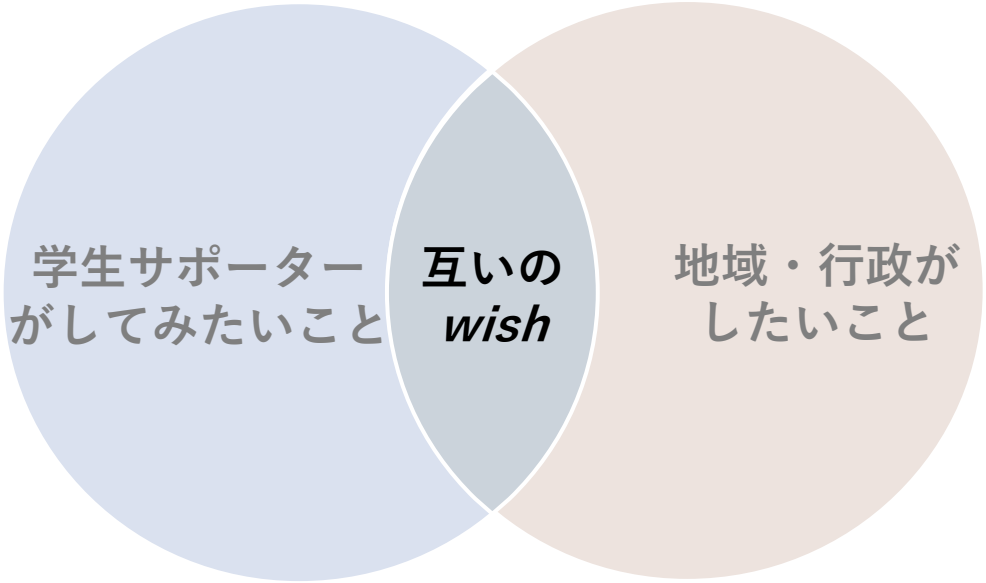
地域・行政が
したいこと



# 3-3 本制度導入の流れ

## 方法❶：参加したくなる企画づくりの仕組み

人手不足などの**地域の需要**をくみ取り、
**学生などの意見**を取り入れ、行政やSEE SEA PARKがイベント化

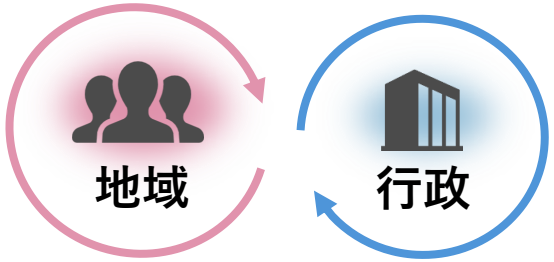






学生の専門的な知識やスキルを活かす場を多様に用意し、
**地域・行政の「やってほしい」と学生の「やってみたい」を掛け合わせた**
イベント・プログラムを考える

# 3-3 本制度導入の流れ




## 方法❶：参加したくなる企画づくりの仕組み

### 「学生サポーターがしてみたいこと」

・学びや専門性を生かして、実践につなげたい
・「ガクチカ」を作りたい
・普段では味わえない経験がしたい

### 「地域・行政がしたいこと」

・学生ならではの斬新なアイデアがほしい
・人手不足の改善
・関係人口の増加

### *互いのwish*

・おおい町発のブランド商品開発
・Instagramの広報戦略
・SEE SEA PARKのイベントポスター制作
・コンテストの受賞作品・過去受賞作品の実現を支援

**互いのwishをかなえつつ、**
**次も参加したくなる企画づくりを目指すことができる**

# 3-3 本制度導入の流れ

## 方法❷：参加を後押しするポイント制度の導入

Umirinマイル

方法❶で提案されたプロジェクトに参加することで、インセンティブとして“Umirinマイル”がもらえる。




遠い距離からも支援したいという学生たちの新しい入り口になる

おおい町外、県外からも関わることで、**おおい町に関わりしろが生まれる**

# 3-3 本制度導入の流れ

## 方法❷：参加を後押しするポイント制度の導入

### Umirinマイル制度とは？

**おおい町のPR、来町してイベント・ボランティアへの参加により、内容に応じてポイントを付与する制度！**

**▌段階的な貢献の入り口の設置**

| 活動内容 | マイル数 |
|---|---|
| おおい町の公式情報をSNSで紹介 | 10マイル |
| 地域魅力マップの作成に協力 | 20マイル |
| オンラインで企画・広報に協力<br>受賞作品の事業化のOB/OGからのアドバイス | 50マイル |
| おおい町のイベントに参加 | 80マイル |
| コンテスト関連イベントに参加 | 100マイル |
| 地域活動の企画・運営を担当 | 150マイル |



# 3-3 本制度導入の流れ

## 方法❷：参加を後押しするポイント制度の導入

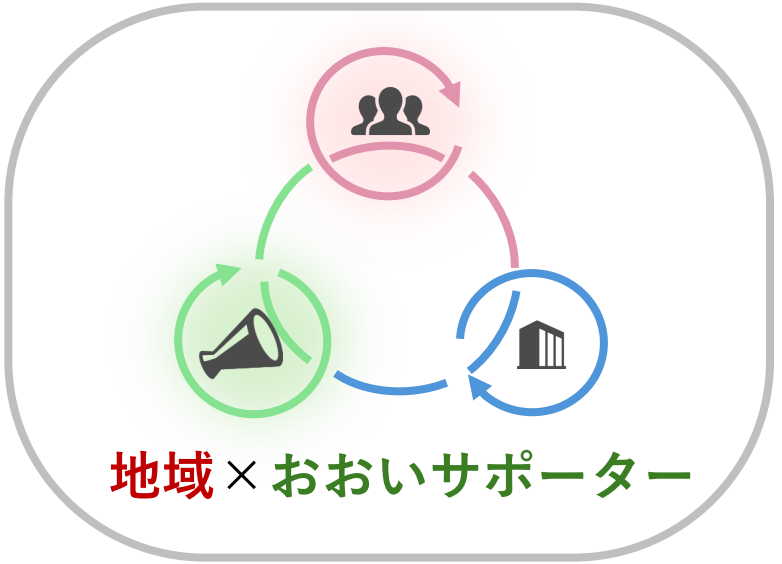
### Umirinマイルの報酬

### ○現地来訪時

・うみんぴあ宿泊時の朝食無料券(300マイル)
・うみんぴあ宿泊料金の2割引券(300マイル)
・ オフシーズンに使えるSEE SEA PARK割引券(200マイル)

### ●地域外

・地域の特産品 (200マイル)
・チャレンジショップ（SEESEAPARK）の商品(100マイル)




**来町できる方もできない方も地域に関わることができ、
来町のきっかけになる**

# 3-4 導入後の展望

関係人口の数

**量的拡大**

**現在の状態**

**コンテスト参加などの**
**一時的・受動的な関わりが中心**



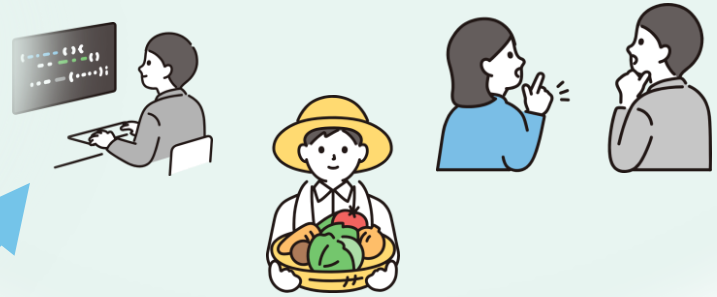
**関わりの広がり**

**イベント参加・オンライン協力・**
**情報発信などの継続的な関わり**



**目指す姿**

**主体的・専門的に地域と関わる**
**学生サポーターの増加**



**質的深化**

主体性・専門性の高い関わり

**おおい町に関わる人の数を増やすだけでなく、一人ひとりの関わりを深め、**
**主体性や専門性を持った人が増えていく**

# 3-4 導入後の展望

## Scene：地域・行政に加えて、学生と一緒に企画立案中



# 3-4 導入後の展望




**「関わりしろ」を増やし、関係の質を高める。**
**そして、おおい町を気にかけ続ける地域の一員としての関係性を築くこと**

# 参考文献


・おおい町公式ホームページ＜https://www.town.ohi.fukui.jp/＞

・第２次おおい町未来創生戦略 若さ”つなぐ響き合う”未来をつかむおおい町
＜https://www.town.ohi.fukui.jp/1002/1209/100/p25197_d/fil/02.pdf＞

・Visit Copenhagen(n.d.)「Det Bæredygtige Forsamlingshus」『CopenPay – Attractions』
＜ https://www.visitcopenhagen.com/copenpay-attractions＞

・Frederiksbergfondenホームページ
<https://frederiksbergfonden.dk/2024/10/15/hospitalsgrunden-bliver-groennere-mellem-de-gule-mursten/>

・ヒダスケ！-飛騨市の観光案内所＜https://hidasuke.com/＞


（最終閲覧日：2026年10月31日）